

閉院から産業医一年生



城間 功旬

昭和 63 年 7 月に一銀クリニック（心療内科）を開設してから 32 年後の令和 2 年 4 月末に閉院しました。理由は慢性的な疲労状態です。1 日に 40 名から 50 名も診察すると仕事の後の疲れがひどくなってきて、そのうちに字も書きづらくなり、書いた字が読めなくなり、このまま診療を続けると健康を維持することが困難であると判断した次第です。

職員の雇用の継続をしたいと思い、2 年間かけて若い精神科医 4 名ほど当たってみました。が、かなわず閉院の道を選択しました。

私には医師の息子が二人いますが、医療ほどの科を選択しても大変であると思っていたので、進路は自分で選んでもらいたいと思い、あえて精神科を勧めませんでした。

長男は近畿大学卒業後、沖縄協同病院で研修し脳神経外科専門医として勤めており、次男は信州大学を卒業後、東京の墨東病院・国際医療センター・癌研有明病院等で救急医療と消化器内科を研鑽し去年 4 月に帰沖し、長男と同じ病院で内視鏡専門医として働いています。二人とも忙しくしていますが、充実して働いている様子で、父親としてはとても嬉しく思っています。

私は、半年ゆっくり休んで疲労状態もとれました。長年にわたり親しくお付き合いさせていただいている先生のご紹介もあり、去年 1 月からは、産業医として、4 社へ月に一度訪問して働いています。

産業医として一番力を入れたのは、コロナ対策です。訪問している建築会社は安全衛生室があり、毎月各部署の部長・課長が計 12 名ほど出席して、安全衛生委員会が活発に行われています。委員会では私はほぼ毎月コロナ対策についての最新の情報をレクチャーして、その文書

はメールで全職員に周知してもらっています。

令和 2 年 3 月には国立感染症研究所・感染症疫学センターの発表したクラスター事例集（院内感染クラスター・昼間カラオケクラスター・スポーツジム関連クラスター・接待を伴う飲食店クラスター・バスツアークラスター・屋形船クラスターなどの事例集）を調べてみますと、密閉空間においては、かなり離れた人にも感染させた例があり、「飛沫感染」では届くはずがなく、「空気感染」でしか説明ができないと思いました。

建設会社の職場のクラスター発生要因は、会議で起こりやすく、しかも締め切った空間でクラスターが発生していることが分かりました。

そこで、「二酸化炭素濃度の測定器」を購入し換気の状態を知るとともに、「感染リスクの洗い出し」が必要であることを安全衛生委員会で説明し、各部署に於いてどんな社内・社外の会議や面談があるのか、その際「窓の有・無」「換気的良好・不良」「面談時間」のアンケートを作成し各部門で調べてもらいました。3 月という年度末で多忙の時期にも関わらず皆さん快く協力してくださいました。

その結果、本社においては換気に問題はなく、現場事務所と客先において、窓がない・換気が不良の例があることがわかりました。換気に気をつけるよう注意喚起しました。

その後、感染力の強いデルタ株が主流となり、ますます換気の重要性が増し、社長へ直接相談し安全衛生委員会に出席してもらい、社長判断でサーキュレーターを 20 個まとめて購入が決まりました。現在は、オミクロン株への対応で追われています。

コロナの後は、働き盛りの死亡率が 10 年連続



1位というショッキングな沖縄県の現状をみて、社内において、肥満・食生活・運動指導を通してメタボリック・シンドローム、特に死の四重奏を起こさないよう、これを次の目標にして取り組んでいきたいと考えています。

現在、私は毎朝30分～1時間程度の運動を自分に義務づけて、それを日課の最重要事項と決めて実行しており（おかげでこの5か月で4kg体重減少）、あいた時間は買い物・読書・

テレビ・孫と遊んだりしてゆっくり過ごしている状況です。

32年間診療所間連携・病診連携でたくさんの先生方にお世話になりました。この場をお借りしてあらためてお礼を申し上げたいと思います。本当に長い間大変お世話になりました。有難うございました。また、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



お知らせ

感染症情報

所管課よりお知らせ

※ 新型コロナウイルス感染症関連の対応の為、当分の間週報の還元を休止させていただきます。申し訳ございませんが、ご了承の程よろしくお願い致します。

なお、沖縄県感染症情報センターでも沖縄県の感染症情報を更新しておりますのでご確認下さいませよう、宜しくお願い致します。

【 <https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html> 】

